

「第三次みやぎ子ども読書活動推進計画（案）」に対する御意見・御提言の宮城県教育委員会の考え方

箇所	御意見・御提言の内容	宮城県教育委員会の考え方
P.4 1-1-3-(4)	<p>○小学生における読書離れが高い水準で推移 → 原因追究のための調査の実施を望む。</p> <p>小学校における傾向として、ある時期から、読書に傾中する子どもと、逆に不読に走る子どもと、二極分化すると聞いている。</p> <p>この時期をとらえ、子どもの家庭における読書環境、過去の読み聞かせ経験、読解力、その他、両極に走る子どもの、それぞれの本との関わりについて、大規模な（あるいは詳細な）調査を実施しなければ、対処すべき方策は見つけれないのではなかろうか？</p>	<p>小学生における読書離れが高い水準で推移していることについては、第二次計画期間（平成20年度から25年度）における不読率の調査結果を参考にしています。当該調査は抽出調査ではありますが、より正確な実態把握とその要因分析のためにはどのような手法があるのか、関係者の意見も聞きながら検討してまいります。</p>
P.17～18 3-1-3～4	<p>○「子ども読書の日」や「子どもの読書週間」を中心とした広報・啓発 → 広報・啓発活動は、読書施設以外を意識した取組にも力点をおくべき。</p> <p>読書施設に訪れる県民は、そもそも読書に関して馴染みのある人々です。啓発対象としては、これら読書施設と縁遠い人たちを対象とすべきだと思います。</p> <p>なおかつ、マスメディアを活用して、広く県民の目にとまり、かつ読書のためのワンポイントアドバイスが印象に残るような広報とすべきだと思います。</p>	<p>御意見のとおりと認識しており、本計画の中でも、広報・啓発活動については、図書館などの読書施設だけではなく、親子が集う様々な場（健診や幼稚園・保育所等の保護者会など）や民間団体が企画するイベント等の場を活用し、進めていく旨記載しています。</p>
P.23 3-2-4	<p>○子どもの読書活動に携わる関係者のネットワーク構築 → 課題を解決するためのテーマを明確にし、それに対処するための目的意識、問題意識を明確にした上で、そのための連携、そのためのネットワーク化に取り組むことを望みます。</p> <p>他の部分における「連携」ということについても同様です。</p>	<p>御意見のとおりと認識しており、平成25年度においては、「みやぎ子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」を、テーマ、目的・問題意識を明確にした上で開催しました。本計画においても、引き続き関係者間における課題の共有化を図り、課題解決に向けた取組を推進して旨記載しています。</p>

箇所	御意見・御提言の内容	宮城県教育委員会の考え方
<p>P.25 3-1-(1)</p>	<p>○絵本の読み聞かせ → お父さんお母さんに対して、絵本との付き合い方を教えることが必要です。 「お父さん、お母さんに、毎日少しでも意識して取り組んでほしい」と記載されており、全くその通りだと思ふ。 が、現実には、発達段階に応じた絵本の選定や子どもへの絵本を通じたコミュニケーションの取り方など、お父さん、お母さん方には、その方法がわからないという方が多い。したがって、そこを解決する方策を明快にすべきであり、それが無い限り、この項目は絵にかいた餅であると思ふ。(行政における取組の項に記載) なお、こうした方策の必要性を具体的に認識した上で、「連携」のあるべき姿を追求すべきです。</p>	<p>御意見のとおりと認識しており、本計画の資料編において、絵本の読み聞かせをする際の参考としていただくため、ブックリストを掲載しています。このブックリストについては、幼稚園や保育所等へ配布するほか、乳幼児検診時など親子が参加する場においても積極的に配布していただけるよう働きかけを行ってまいります。 また、絵本の読み聞かせの方法等についても、健診等親子が集う場を活用して、読み聞かせボランティアの方による実演の機会をつくるなどの取組に努めてまいります。</p>
<p>P.26 3-1-(1)</p>	<p>○ノーテレビ、ノーゲーム、ノー携帯電話の日の設定 → 早急に、組織的な実施に向けて動く事を望む 「期待されます」という消極的なまとめですが、組織的な推進に向けた検討が急がれます。(後段にて記載されていますけれど) 日本小児科医会などにおいても、2004年に提言(子どもをメディアの弊害から守る)していることでもあり、最近も、「スマホに子守をさせないで」と訴えております。 子どもをメディア漬けにした場合の弊害が明らかである以上、少なくとも、家庭や学校におけるメディア利用のルール作りに関して、組織的な運動を早急に起こすべきです。</p>	<p>御意見のとおり、関係者とも連携を図りながら積極的に推進してまいります。</p>

箇所	御意見・御提言の内容	宮城県教育委員会の考え方
<p>P.26 3-2-(2)</p>	<p>○小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校 → 小学校において、担任の先生が継続的な読み聞かせを行うべき 「10歳までは、大人が読んでやるのが子どもの読書である」という考えがあることを、念頭におくべきだと思います。本から得られる感動は、当初は、大人が読み伝えることで、子どもが体感できるものでしょう。さらに、「行間を読む」ことなども、経験豊富な大人だからこそ伝えられる面があると思うのです。</p> <p>そうした意味で、少なくとも、小学校の中学年くらいまでは、「朝の自由読書」だけではなく、学校の担任の先生が10分でもいいから読んであげることが、子どもの読書推進上、大きな力を発揮するものと思います。学校の先生は、家庭の親と同じくらい、子どもにとって身近な大人であり、読んであげた本に関するフォローもできる位置にあります。一部の先生は実行されておられるようですが、ボランティア任せだけにするのではなく、是非、組織的に実施していただきたいと思います。</p>	<p>御意見のとおりと認識しており、各市町村教育委員会に対しても意義を説明しながら働きかけを行ってまいります。</p>
<p>P.27 3-2-(2)</p>	<p>読み聞かせやブックトーク、ビブリオバトルやアニメーションなど、新しい試みに取り組みされる意欲が強く伝わってきました。その中にストーリーテリングが入っていないことを残念に思います。</p> <p>政府が発表した推進計画（第三次）には入っており、仙台市のものにも入っております。県内の図書館では、石巻市、東松島市、美里町、栗原市において、ボランティアが活発に活動し、小学校に入っている所もあります。</p>	<p>本計画の中でストーリーテリングの取組についても反映してまいります。</p>

箇所	御意見・御提言の内容	宮城県教育委員会の考え方
P.28 3-4	<p>○ ブックスタートやブックスタートに準じた取組の推進 → 絵本の活用に関する知識を伝える「絵本講座」を連携事業として展開すべき</p> <p>絵本は、乳幼児とのコミュニケーションツールとして、また、発達段階に応じた言葉の獲得、想像力の育成など、その有用性が言われております。</p> <p>ブックスタートは、このうち、「コミュニケーションツールとしての絵本の薦め」といった側面が強く、コミュニケーション能力の獲得と人間的感性の形成上、極めて大事なものでありますが、お父さんやお母さん（出産前の両親を含む）への更なる情報提供の場として、子どもの読書活動につなげるための絵本の活用も含めた「絵本講座」ともいべきものを、行政や公立図書館の連携のもとで、実施することを望みます。</p>	<p>御意見を参考とし「絵本講座」の開催については、今後の計画推進の中で検討してまいります。</p>
	<p>○全般に関連して → 読み聞かせボランティアによるお話会や読み聞かせの「質」の向上を図れ ・・・地域、学校、公立図書館等における取組と関連・・・</p> <p>「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行以来、その基本計画などに則り、全国的に読み聞かせボランティアの養成が図られ、読み聞かせボランティアの活動も、地域から学校に至るまで、幅広く行われています。</p> <p>が、これまで、その「質」については問われたことがなく、特段のフォローらしきフォローもなされてきておりません。</p> <p>子どもを本の世界に導き入れ、その感動を共感するに至らせるには、子どもの発達段階に応じた本の選定力と、その本の内容をきちんと伝える読解力と最低限の朗読力は、映像メディアが溢れる昨今なら、ことさらに必要とされると思います。本の内容を伝えることができれば、子どもは、その想像力を働かせて、自らの脳裏に映像を結ぶことができるわけですし、それこそが、読書へと誘う原動力であるはずで</p>	<p>本計画における子ども読書活動の担い手育成支援の中で、ボランティアの方の資質向上に向けた取組についても推進してまいります。</p>

箇所	御意見・御提言の内容	宮城県教育委員会の考え方
	<p>しかし、「ぼくは、あのおばさんたちが来たら、別なことを考えて、（読み聞かせが）終わったら拍手すると、喜んで帰っていくんだ」と告白する児童の存在や、「（絵本を読むと）子どもたちが飽きるから、ここで必ず手遊びを入れること」と、かたくなに信じているボランティアの存在など、ボランティアに起因する改善点があることも事実です。</p> <p>親や学校の先生など子どもと継続的に接する大人と異なり、多くは一期一会の関係になりかねないボランティア活動に関しては、これら、子どもを読書に誘うための活動である「読み聞かせ」や「おはなし会」自体に、見直すべき現実がある事を認識し、また、「字は読めても、本が読めない学生が増えている」という映像メディア依存社会の現象を考え、手放しで（この計画には、至る所に「おはなし会」と「読み聞かせ」が出てきますが）おはなし会や読み聞かせを行えばいいとするのではなく、その質の向上を図るべきであると思います。</p>	